

第10期淡路地域ビジョン委員会最終報告会結果概要

日時：令和4年3月19日（土）14:00～16:30

場所：オンライン

参加者：ビジョン委員22名、専門委員6名、ビジョンOB1名、
新ビジョン検討委員2名、淡路景観園芸学校2名、淡路ラボ6名 計39名
吉野交流渦潮室長、事務局（大橋、福榮、正司）

内容

(1) 第10期ビジョン委員会各分科会最終報告（9分科会×5分）

<健康・福祉分科会> 発表者：顕谷 友圭里

障害者スポーツ・園芸療法
2本柱



- ・障害の有無に関わらず、老若男女一緒にできる
- ・リハビリやコミュニティづくりの場となる
- ・身体的・精神的・社会的な健康づくり

→地域に卓球バレーと園芸療法を取り入れたい

（講評：嶽山洋志専門委員）

大学生もコロナ禍でオンライン授業が多い中、癒しを求めて観葉植物を育てている。新たな暮らし方を今後も淡路島で広めていただきたい。企業のデスクや学校の教室にも取り入れていくような活動を今後していったら面白いと思う。

<淡路島の自然の豊かさを学ぶ分科会> 発表者：行徳 昌則

淡路島の自然の豊かさを学ぶ分科会

活動の目的

島内の大学生と一緒に淡路島の自然の豊かさを体験しながら学ぶ
・淡路島の自然を知ること、今後の地域環境保全や環境活動に繋げる。
・淡路島の自然に接して地域への愛着を深める事になる。

活動の実績

- ・2020年12月 淡路景観園芸学校 見学会を行う。参加7名
嶽山准教授のご案内でキャンパスの自然環境を見学した。
- ・2021年度は新型コロナウイルスの影響で実際に活動することができなかったため、淡路島の自然の豊かさとは何かを模索した。
- ・淡路島は歴史に培われた人々の営みがつくる里山、里地、里海の自然環境が豊かさと認識した。
海の豊かさ みどりの豊かさ 生き物の豊かさ 風景の豊かさ
- ・2021年11月 全体会で「淡路島の生物多様性について」講演を聞いた
淡路景観園芸学校 澤田准教授と連携できた。
- ・2022年3月 淡路島の豊かな自然を体験できるフィールドに行く自然観察会を予定
淡路景観園芸学校 澤田准教授のご案内で自然観察を行う予定

③②①④⑤

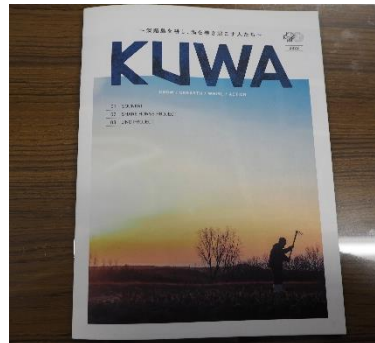
淡路景観園芸学校 キャンパス見学会 2020年12月13日



(講評：嶽山洋志専門委員)

発表用の写真はすべてとても美しい。今後もこの景色を守っていくために、継続して活動してほしい。今後は、生物多様性の自然保護区を淡路島でどのようにエリア化していくのか、課題になってくるのではないかと思う。

<SDGs 推進分科会> 発表者：塩田 宏紀



(講評：嶽山洋志専門委員)

檜を使用したえんぴつを作成したのはおもしろい。今後、島内で同じ目標を持って活動している団体もいると思うので、他団体ともつながりを持ち、活動が循環していくようになるとより良くなると思う。

<鳴門海峡の普及啓発分科会> 発表者：豊田 克己



(講評：西川昌伸専門委員)

とても興味深く聞かせていただいた。学校での出前講座は、普及啓発においてとても重要な活動だと思った。また、クリーンアップ大作戦は、地域で住民と一緒に取り組むイベントであり、世界遺産に向けて士気を高める活動だと感じた。

<淡路島コミュニティづくり分科会> 発表者：中舎 義博



(講評：西川昌伸専門委員)

地域のコミュニティづくりの重要性を再確認した。「移住した方が帰りたくない町」というキーワードは、とても興味深かった。その中には、移住したくなる町というアピールも不可欠だと思うので、地域の人とのつながりを通して愛着を持ってもらい、交流人口の拡大に繋げることは重要である。

<淡路五山の歴史巡り分科会> 発表者：近江 寛

活動目的

淡路五山*を中心に淡路島の知られざる歴史の掘り起こしを行うと共に新たな観光資源を開発すること



淡路五山*

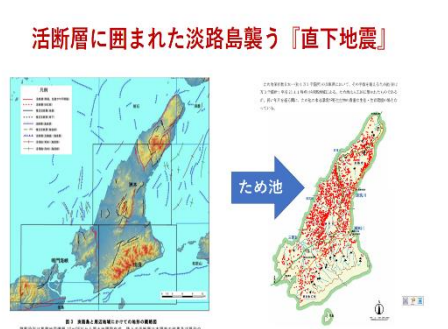
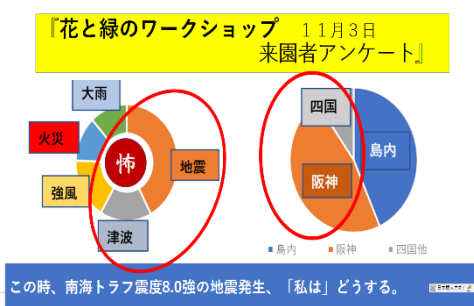
- ① 諭鶴羽山 ② 柏原山 ③ 先山 ④ 東山寺(平生山) ⑤ 常陸寺山



(講評：西川昌伸専門委員)

観光資源の掘り起こしということに着目しているのはおもしろいと思った。具体的な宣伝活動についてもよく考えられている。コロナで旅行される客層が変わってきているので、マイクロツーリズム化している観光業の状況を捉えて、誘客につながる活動をしてほしい。

<防災分科会> 発表者：森崎 義彦



(講評：横山孝雄専門委員)

3市・県の防災担当者と意見交換を実施し、島民としての深掘りがきめ細かくできており、大変素晴らしい活動だと感じた。気候変動に関わる防災・減災は、非常に重要な課題だと思う。平時の取り組みが役に立ち、淡路の安全安心な社会の実現にも繋がっていくと思う。今後の活動にも期待したい。

<農林水産分科会> 発表者：堀田 修司

活動内容

■竹林伐採
2021年2月27日、12月3日実施

NPO法人、県立大学とのコラボにより実施
伐採作業
竹割、節取り、結束作業を実施(炭焼きの一部工程)

■徳島県の視察見学
●実施日 2022年3月12日(土)
●ごみの焼却熱、農林水産部会との共同開催
●参加者 14名(ビジョン委員、温暖化防止活動推進員、他)
●訪問先
➢上勝町のゼロ・ウェイストセンター
「リサイクル率80%のまち」

➢竹林管理方法の見学と/ウハウウの聞き取り
YouTuberの「チャンネルはんくん」を訪問

(講評：横山孝雄専門委員)

魅力ある食品開発を実施していくためには、農林水産資源の新たな展開が必要だと思う。脱炭素社会において、カーボンフットプリント (CFP) の表示をすることで淡路島産商品がブランド化、差別化され、競争力のアップにつながるのではないかなと思う。

<ゴミ焼却熱の活用と利活用を学ぶ分科会> 発表者：木戸 隆一郎

トーヨーバイオメタンガス発電所
養父市(11月11日)

①メタン発酵させバイオガスで発電
②排熱はハウスで有効利用
③メタン発酵後の副産物である消化液は液肥に、残りの固形物は堆肥に

ゴミ焼却熱の活用と利活用を学ぶ分科会

二酸化炭素や温風、排熱や堆肥化など
農業に有効利用できるものばかり。

発電だけではなくスマート農業に活用できる!!!

今後は行政の管轄部署に報告し少しでも実現可能なものは
反映してもらう。

(講評：横山孝雄専門委員)

最近では、燃やさず、すべての資源を循環していく循環経済が希求されている。淡路島が先頭に立って、脱炭素型の農業、漁業を進めていき、次の展開に繋げる活動を今後も続けてほしい。

(2) グループセッション ファシリテーター：投石文子専門委員

自己紹介（5分）

セッション①（15分）

（ビジョン委員会活動を振り返っての感想、報告会の感想）

新ビジョンの解説（10分）

（ビジョン活動からみた新ビジョン）

セッション②（10分）

（新ビジョンの実現に向けて、私たちができること）

グループセッションで出た意見

【新ビジョンの実現に向けて私たちができること】

- ・「人」が大事。人をどう育てるか、人をどう集めるか、人がどう動くかが重要。
- ・移住者と島民の交流の場を作る。
- ・移動が困難な高齢者が多いので、コミュニティバスを充実させる。
- ・地域の方と連携して、食の裏側を発掘し生産者の顔が見える取り組みや、教育学習をしていく。
- ・国の始まりから未来を創る、2025年に向けて100のアクションに取り組んでいる。今後は、カレーの地産地消に取り組んでいく予定。
- ・淡路島五山を知ってもらい、淡路島に来てもらえるようアピールする。
- ・園芸療法を淡路島で広げていく。
- ・環境・健康・観光の3Kを淡路島に広める。
- ・淡路島の特色を生かした高校や大学、仕事を増やすことで後々の移住や就職につなげる。
- ・今までの活動を生かして、環境学習、竹林保全、竹の有効活用を実施していく。

(3) 全体講評

（田中亨胤専門委員）

ビジョンを推進していくためには、「SDGs」「ユニバーサルデザイン」「インセンティブ（動機付け）」「インキュベーション（事業創出）」という言葉が今後キーワードとなってくる。ビジョン委員会の活動が、まさに淡路のブランディング化になっていくのではないかと考えている。淡路から全国、世界に発信していける素晴らしい取り組みだと思うので、あらゆる分野のモデルを提供していけるよう今後とも引き続き活動していただきたい。

(4) 閉会の挨拶

(山本益嗣委員長)

第10期ビジョン委員会は、コロナ禍で大変だったが、今日報告いただいたように、そんな中でも工夫を凝らしてどの分科会も活動できたのは、大きな成果だと思っている。

コロナで大変なことは色々あったが、良くなったことが2つある。1つは、今まで使わなかったデジタル技術を年配者も含めて活用出来るようになったということ。2つ目は、コロナ禍で自然と食に恵まれた淡路島が注目され、移住希望者が急増しているということ。

ビジョン委員会はこれで終わるが、新ビジョンができたので、今後も引き続きビジョン推進に協力して活動していきたい。皆さん2年間お疲れ様でした。

以上